

※DTX投与は基本6クールまで

## 【レジメン】

day 1 ② パージェタ 420mg/body  
 day 1 ⑤ ハーセプチン 6mg/kg  
 day 1 ⑨ ドセタキセル 60~75mg/m<sup>2</sup>  
 day 2~2 休薬

上記を3週毎に繰り返す。

※パージェタの投与量：前回投与日から6週間以上経過した際には改めて  
 初回投与量の840mgを投与する。

## 【治療内容】

実施日	投与薬剤	経路	投薬内容	時間
day1 ( / )	<input type="checkbox"/> ① 生食50mL	点滴	プライミング用の点滴です。	15分
	<input type="checkbox"/> ② パージェタ420mg+生食250mL	点滴	治療薬です。 ※PERの投与速度は下記参照	60分・30分
	<input type="checkbox"/> ③ 生食50mL	点滴	ルート内をフラッシュします。	15分
	<input type="checkbox"/> ④	※ 観 察 時 間		45分
	<input type="checkbox"/> ⑤ ハーセプチン ( ) mg+生食 250mL	点滴	治療薬です。 ※HERの投与速度は下記参照	90分・30分
	<input type="checkbox"/> ⑥ 生食50mL	点滴	ルート内をフラッシュします。	15分
	<input type="checkbox"/> ⑦	※ 観 察 時 間		15分
	<input type="checkbox"/> ⑧ デキサート8mg+ グラニセトロンバック1mg/50mL	点滴	吐き気・過敏症予防の点滴です。	15分
	<input type="checkbox"/> ⑨ ドセタキセル ( ) mg+ 生食500mL	点滴	治療薬です。	120分
	<input type="checkbox"/> ⑩ 生食50mL	点滴	ルート内をフラッシュします。	15分
day2 ( / )	<input type="checkbox"/> ① デカドロン0.5mg 8錠	内服	吐き気・過敏症予防薬です。	朝食後
	<input type="checkbox"/> ② デカドロン0.5mg 8錠	内服	吐き気・過敏症予防薬です。	夕食後
day3 ( / )	<input type="checkbox"/> ① デカドロン0.5mg 8錠	内服	吐き気・過敏症予防薬です。	朝食後
	<input type="checkbox"/> ② デカドロン0.5mg 8錠	内服	吐き気・過敏症予防薬です。	夕食後

※パージェタの投与速度：初回投与の忍容性が良好であれば、2回目以降の投与時間は30分間まで短縮できる。

※ハーセプチンの投与速度：初回投与の忍容性が良好であれば、2回目以降の投与時間は30分間まで短縮できる。

※観察時間：Infusion reactionの発現がなければ、パージェタ投与後の観察時間は30分に短縮可能。

※観察時間：Infusion reactionの発現確認のため、ハーセプチン投与後30分、観察時間を設けること。

## 【化学療法施行前に処方する薬剤】

・デカドロン錠0.5mg 16錠/2x朝・夕食後 2日

## 【化学療法に関わる指示】

嘔気時：メトクロプラミド ( ) A 静注およびデキサート ( ) mg 静注 ※配合変化のため混合しない  
 上記効果が不十分な場合

オランザピンOD錠5mg 1錠内服(1日1回のみ使用可) ※糖尿病の既往がある場合は使用不可

吃逆時：メトクロプラミド1A静注

コントミン10mg 1A 筋注

※メトクロプラミド(注射・錠剤)とH2ブロッカー(注射)またはPPI(注射)は原則併用禁忌です。